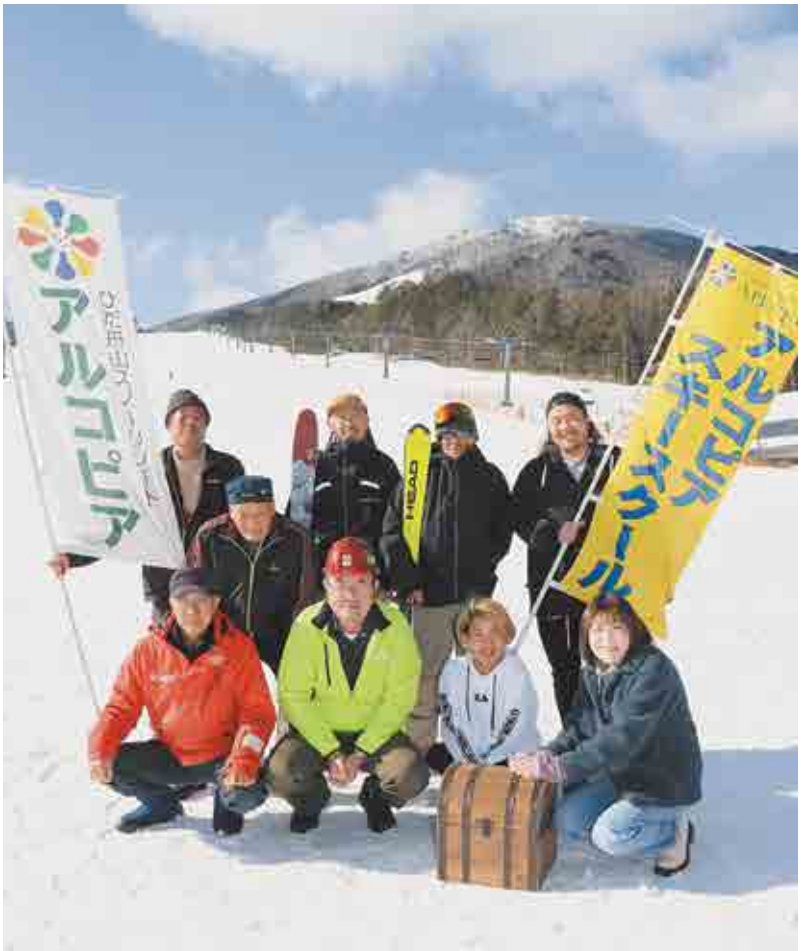
# 59年の歴史に幕
# 飛騨舟山スノーリゾートアルコピア

問合せ　久々野支所　☎52-3111

昭和・平成・令和と3つの時代を駆け抜け、親から子へ、子から孫へと親しまれてきた「飛騨舟山スノーリゾートアルコピア（以下、アルコピアスキー場）」は、今季の営業をもって開業59年の歴史に幕を閉じます。半世紀以上の世代を超えてご尽力いただき、どんな時も寄り添ってくれた関係者の方々と地元久々野町の皆さん、開業当初から足を運んでくれたアルコピアスキー場のファンの皆さんに、心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。今号ではこれまでの歩みと感謝イベントをお知らせします。

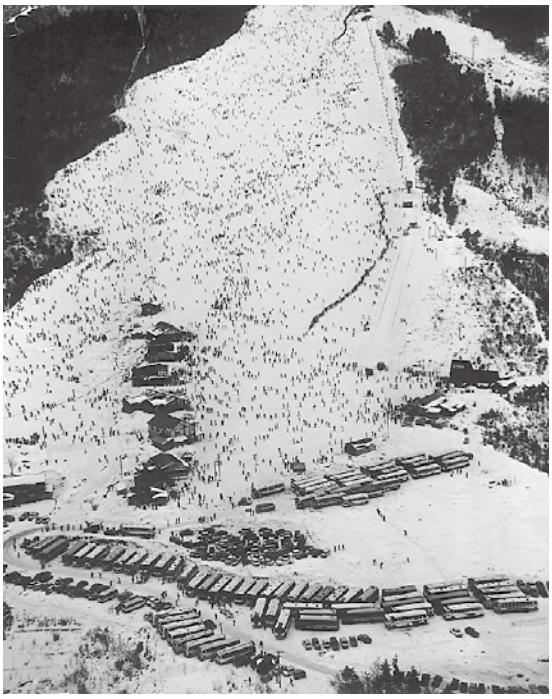


笑顔でお迎えするスキー場関係者の皆さん

## これまでの歩み

### 昭和38年「舟山高原スキー場」として誕生

スキー場開設のきっかけは、昭和36年の町の文化祭にスキークラブ員たちが展示した未来図「舟山スキー場開発構想図」でした。標高800～1400m付近は毎年積雪も多く、雪質も良いこと、また、当時の県指定のスキー場のどのスキー場よりも国鉄の駅に近く、中京・京阪神から最も近いなどの好条件であることから建設が始まりました。昭和38年12月25日、25haの敷地にリフト1基、ヒュッテ9軒で『舟山高原スキー場』は誕生しました。


写真①　賑わいを見せる舟山高原スキー場

### 昭和42年 年間11万人の来場者で賑わう

第1次スキーブームの昭和40年代は、休日の入込客は爆発的に急増し、昭和42年度のスキー客は、11万人を突破しました。当時のゲレンデは、まるで芋を転がしたかの様な状態で、多くの来場者で溢れていました（写真①）。また、当時の交通手段は貸切バスと列車がほとんどで、スキー場へのバスは常に満員。バスに乗り切れず、スキー板を担いでスキー場へ向けて歩く姿も、よく見かけた光景でした（写真②）。旅館や民宿は、オープン当初の十数軒から94軒にも増え、まさに天の恵み、神の恵みの恩恵をいただいた『舟山高原スキー場』の黄金時代がやって来たのです。